

韓国の手しごと 暮らしの布・ポジャギと刺繍

近江の湖東地域は、古代、先進的な技術をもった渡来人、依知秦氏（えちはたうじ）によって開発されたと考えられています。本展では、依知秦氏の故郷である韓国の手しごとから、日々の暮らしで気軽に楽しむことができる「ポジャギ」を紹介します。

「ポジャギ」(보자기)とは、ものを包んだり覆ったりする布のことで、日本の風呂敷や袱紗のようなものです。ポジャギといってもその種類は多く、ハギレをつなぎ合わせて作るパッチワーク風のもの、刺繍入りのもの、綿をはさんで刺子風にするもの、油紙で作るもの、木版を押して作る柄入りのものなど実に様々です。特にパッチワーク風のは「チョガッポ(초각보)」といい、今ではポジャギといえば「チョガッポ」のことを意味するまでになりました。

「チョガッポ」は衣服や布団を作って残ったハギレや古くなった服のきれいなところを取って作りました。家庭では針仕事を学ぶ教材のようなもので、昔の女の子たちは小さなはぎれをつないでいく中、縫い方はもちろん、小さいものでも大事にすることを学んだといいます。一針一針丁寧に作ったポジャギは単なる布の再利用ということにとどまらず、縁起物としても親しまれてきました。その背景には心を込めて作ったポジャギでものを包むのは、同時に福を包み込み、福を呼ぶとされた民間信仰がありました。また、小さなハギレを無数につないでいく行為は、長寿を願うという意味にもつながっていたといいます。

ポジャギのことを漢字では「褌」と書きますが、古い文献には同音の「福」という字がポジャギの意味で使われているものもあります。



関連行事

■ワークショップ

「ポジャギのミニピン・クッション」

講師：李 京玉 (イ・キョンオク)

日時：11月4日(土)
13時～15時

場所：近江上布伝統産業会館
定員：20名(要申込・先着順)
受講料：1,500円



■ギャラリートーク

講師：李 京玉 (イ・キョンオク)

日時：11月4日(土)
15時30分～16時

場所：びんてまりの館

■ミニ展示『韓国絵本の世界』

会期中、展示会場にて、愛荘町立秦荘図書館所蔵の韓国の絵本を展示します。



【交通のご案内】

- 車で：国道8号「愛知川」信号より東へ5分
- 電車で：JR能登川駅からバス「市ヶ原」行乗車「愛知川駅」下車徒歩7分。または、近江鉄道「愛知川駅」下車徒歩7分



李 京玉 (イ・キョンオク)

ポジャギ作家。ポジャギ工房koe主宰。2001年に来日。日韓の文化交流に役立ちたいと考え、ポジャギを各地の教室にて教える。韓国伝統の配色をベースにした、優しい色合いが特徴。その色彩と伝統にこだわらない感性で共感を得ている。著書に『私のポジャギ』(風讀社、2004)、『韓国の手仕事を身近に暮らしのポジャギ』(NHK出版、2008)がある。ホームページ <http://www.korea-e.jp>

愛荘町立 愛知川びんてまりの館・愛知川図書館

〒529-1313 滋賀県愛知郡愛荘町市1673 TEL. 0749-42-4114